



2024年12月25日

各位

会社名 株式会社篠崎屋  
代表者名 代表取締役 関根 雅之  
(コード番号 2926 東証スタンダード市場)  
問合せ先 取締役管理グループ長兼経営企画部長  
兼 I R 室長 矢立 実  
電話番号 048-970-4949

### 上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況及び計画期間の変更について

当社は、2022年11月30日付でスタンダード市場の上場維持基準への適合に向けた計画を提出し、その内容について開示しております。2024年9月末時点における本計画の進捗状況について、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の2024年9月末時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況は、その推移を含め以下のとおりであり、流通株式時価総額については基準を充たしておりません。当社においては、当初計画しておりました2024年9月末より計画期間を見直し、2026年9月末日を期限としてこの上場基準を充たすために引き続き各種取組を進めてまいります。

		株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の適合状況及びその推移	2021年6月末時点 (移行基準日)	7,180人	97,469単位	12.34億円	67.5%
	2022年9月末時点	6,596人	93,307単位	8.93億円	64.6%
	2023年9月末時点	6,155人	90,128単位	8.30億円	62.4%
	2024年9月末時点	5,885人	91,947単位	7.92億円	63.7%
上場維持基準		400人	2,000単位	10億円	25.0%
適合状況		適合	適合	不適合	適合
当初の計画に記載した計画期間				2024年9月末	
変更後の計画期間				2026年9月末	

※ 当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

## 2. 上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針

当社はスタンダード市場基準に適合するため、2024年9月までに流通株式時価総額10億円を目指してまいりましたが、当初計画しておりました2024年9月期において、上場維持基準を改善できなかったため、2026年9月期までに改善を進めてまいります。

2024年9月期においては、①業績回復、②コーポレートガバナンスの強化、③IR活動の強化に取り組んでまいりました。2025年9月期においては、業績回復を株価上昇の最重要課題と認識し、時価総額の向上を図ってまいります。

## 3. 上場維持基準への適合に向けた取組の実施状況及び評価（2023年10月～2024年9月）

### ① 取組の実施状況

2024年9月期においては、前事業年度の取組で増加した顧客数を維持し、過度な値上げによる顧客減少を防ぐため、慎重に販売価格の見直しを行い、黒字化に向け利益率の向上を目指してまいりました。

2023年9月期の「上場維持基準の適合に向けた計画書」に記載の取組は以下の通りです。業績回復には魅力ある商品づくりが不可欠であると考え、最低月間3アイテム以上の新商品を導入し、売上の向上に努めてまいります。

新規店舗の出店に関しては、利益確保可能な物件の確保と同時に新規従業員の確保が可能であれば積極的に出店を進めます。一方で、確実に利益を見込める催事を年間10本以上実施し、利益改善を図ってまいります。

コーポレートガバナンスの強化においては、代表取締役の交代、新任監査役（企業会計に長年従事し、会社経営全般に十分な見識を持つ方）を迎え、収益力向上に向けた総合的な取組を進めてまいります。

IR活動の強化に関しては、引き続きSNS等での情報配信を行うとともに、アクセス数向上を目的に人員を強化し、掲載内容（写真や文章）の見直しを実施してまいります。

### ② 取組に対する評価

利益の向上に関しては、値上げによる定価販売率低下が無いかを日々確認し、過度な値上げによる顧客数減少が無いよう取組み利益率の改善を行えました。新商品の導入に関しては、販売数の多い米飯で高単価商品の導入等により、顧客単価、利益率の向上に貢献いたしました。

新規店舗の出店については、利益確保可能な物件を確保することはできませんでしたが、催事に関しては目標予定数を上回り利益貢献いたしました。

コーポレートガバナンスの強化においては、代表取締役と監査役との意見交換を重ね定価販売率の向上に重点を置き、利益改善に貢献いたしました。

IR活動の強化では、引き続きSNS等での情報配信を行いましたが、専門的な人員の強化ができず、大幅なアクセス数の増加には至りませんでした。

以上の取組の結果、業績の推移は以下のとおりとなりました。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2022年9月期	2,791,296千円	△60,831千円	△60,807千円	△94,395千円
2023年9月期	2,680,382	△77,077	△73,554	△22,806
2024年9月期	2,785,774	△9,349	△6,056	△28,375

※2023年9月期において、水海道工場を売却したことによる固定資産売却益82,449千円を特別利益として計上しております。

売上高、営業利益及び経常利益において前事業年度を上回りましたが業績回復にはいたらず、「流通株式時価総額」に関しては8.30億円から7.92億円に減少いたしました。

#### 4. 上場維持基準に適合していない項目ごとのこれまでの状況を踏まえた今後の課題と取組内容

##### ① 今後の課題

流通株式時価総額が適合していないため、業績回復が課題となっております。

##### ② 取組内容

2025年9月期においては、引き続き過度な値上げによる顧客数の減少を防ぐため、慎重に販売価格の見直しを行い、黒字化に向けて利益率の向上を目指してまいります。また、業績回復には魅力ある商品づくりが不可欠であるため、集客力の高い新カテゴリー商品の導入や、既存カテゴリー商品においては月間最低3アイテム以上の導入により、売上向上に努めてまいります。

新規店舗の出店に関しては、利益確保可能な物件の確保と同時に新規従業員を確保できる場合に積極的に出店を進めます。また、収益率の高い催事を年間15本以上実施し、利益改善を図ってまいります。

IR活動の強化については、引き続きSNS等による情報配信を行ってまいります。

当社は、以上の取組を着実かつ継続的に実施し、流通株式時価総額の上場維持基準を満たすべく努力するとともに、ステークホルダーの皆様のご期待にお応えできるよう尽力してまいります。今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上